

近鉄奈良駅

奈良文化会館

県庁

東大寺 →

R369

東向商店街

④奈良縣里程元標

③南円堂

②興福寺

①五重塔

登大路園地

三条通り

コンビニ

⑤采女神社

⑨五十二段

⑧猿沢池

⑥元林院町

WC

コンビニ

P

もちいどの商店街

⑦猿田彦神社
(道祖神)

奈住研本社

ならまちセンター

P

⑪オブジェ

奈良ホテル

⑫大乘院庭園

ならまち大通り

奈良町情報館

⑩元興寺
(極楽坊)

ならまち工房

⑭十輪院

⑬頭塔

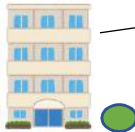
国道169号線

一の鳥居

荒池

荒池

なら和み館





①五重塔

仏教の祖、釈迦の舍利(遺骨)を納めるために天平2年(730)に興福寺の創建者藤原不比等の娘、光明皇后によって建立された。薬師三尊像、釈迦三尊像、阿弥陀三尊像、弥勒三尊像が安置されている。
5回の被災・再建を経て現在のものは応永33年(1426)に再建されたものだが、廃仏毀釈の折には取り壊しの話が出たので唐招提寺の末寺竹生院の吉川住職によって5両で買い取られ一旦は難を逃れた。その後奈良奉行所に買い戻され金属部分を売り払うため全て燃やす計画が上がったが、周辺住民の嘆願によって計画は寸前に中止され現在に至るまでその姿が残される事となった。



②興福寺

藤原鎌足夫人、鏡大王が釈迦三尊像を本尊として山城国に山階寺を創建し、710年の平安遷都に伴い現在地に移された。度々の戦火に見まわれ、中でも治承4年(1180)の平重衡の南都焼討の際には大半の伽藍が消失した。多くの僧兵を抱え江戸時代には21,000石の朱印を与えられ実質上の大和国守護として大いに権勢を誇ったが、廃仏毀釈により境内は堀が取り払われ奈良公園の一部となり大きく衰退する。明治30年(1897)には再興が始まり徐々に寺観が整備され、現在中金堂の再建工事が行われている。
なお、国宝館にある乾漆八部衆立像のひとつ阿修羅像は2009年の「国宝 阿修羅展」において異例の人気を集め、東京国立博物館においては歴代3位の入場者を記録した。



③南円堂

813年(弘仁4年)、藤原北家の藤原冬嗣が父内麻呂の冥福を祈って創建した八角堂。興福寺は藤原氏の氏寺であったが摂関家北家の力が強くなり、その祖である内麻呂・冬嗣ゆかりの南円堂は興福寺の中でも特殊な位置を占めた。発掘調査では、基壇築造の際に地神を鎮めるために和同開珎、隆平永宝といった銭貨が撒かれた事が明らかとなっており、弘法大師(空海)が関わっていたと伝えられている。現在の堂は創建後4度目の建物で、1789年(寛政元年)に再建された(重要文化財)。
室内には、空羂索観音像と四天王像が安置されている(いずれも国宝)。西国三十三箇所第九番札所。



④奈良縣里程元標

京都(京街道)・大阪・三重(上ツ道)・奈良上街道・伊勢街道・伊賀街道)へと向かう諸街道の起点。傍らには御高札場が復元されており、様々な注意書きに混じり鹿へのものがある。
定 奈良公園をすみかとし鹿に申し渡す 一人の捨てし如何様のごみをも思慮なく食す事ならし 特にビニール袋は未消化にて死に致らしむ仲間多かりし 一車の増えし昨今鹿身事故跡を絶たず 道路横断の時は左右確認を怠るべからず 一其の方共弱き生き物なり 犬の牙には特に注意し その姿見れば懸命に逃げるべし 一人とは仲良く ゆめその角その足を振り上げ傷つけし事 無かりしよ 注意すべし 常に大和国の顔として其の身を自覚し 人に愛される鹿たるべく日々研鑽すべし



⑤采女神社

奈良時代に天皇の寵愛が衰えたことを嘆いた女官が去る沢池に入水し、この霊を慰めるために建立されたと言われる。元は東を向いていた社殿が、入水した池を見るのは忍びないと言われ、西を向き池に背を向けたのは采女の霊の仕業という。池の反対側には入水する前に着ていた衣を掛けたとの伝説が残る「きぬかけの柳」の石碑が立つ。旧暦の8月15日には「采女祭」が行われ、猿沢池に船が浮かべられ周辺一帯が大いに賑わう。



⑥元林院町

興福寺や、春日大社を描く絵師たちが多くこの地に住み込んだために「興福寺の絵屋町」という別名が存在する。著名な洋画家、絹谷幸二が祇園の芸者を連れて帰り披露したのをきっかけとして「芸者の町」と呼ばれるようになると芸者が多く暮らし、置屋が並び大いに賑わった。昭和初期には200人ほどの芸舞妓がいたが徐々に衰退し、一時は断絶の危機を迎えたものの今御門町「つるや」の菊乃芸妓による「元林院花街復興プロジェクト」が立ち上がり再興の機運が高まっている。置屋跡はそれぞれ料亭や商家に形を変えたが、歴史ある建造物群はかつての栄華が偲ばれる。



⑦道祖神

平城天皇の御代に元興寺境内に創祀されたと伝わる。宝徳2年(1450年)元興寺の大火後、再々の火難に類焼し、現在の小祠となった。祭神は天孫を地上に先導した猿田彦命。導きの神であることから辻を守る道祖神によく習合し、塞の神とされることも多かった。「塞の神」は「賽の神」とも表現された。薬師堂町の御霊神社との勝負に負け氏子を奪われ、蚊帳のみにされた伝承から勝負事の神となり、境内の荒神と呼ばれる石を持つと勝負事に強くなるとの俗説から大小の削れた跡が残る。



⑧猿沢池

万物の生命をいづくみ、捕らえられた生き物を野に放つ興福寺の儀式「放生会」を行うため天平21年(749年)に興的に作られた。『澄ます・濁らず・出ず・入らず・蛙はわかず・藻は生えず・魚が七分に水三分』との七不思議が伝えられるが、実際は五十二段横より取水口、菩提川側に放水口が見られる。2017年に18年振りに行われた水抜き調査では在来のクサガメ・イシガメが減少しているのに対し外来種のカサガメ等が急増しており生態系の乱れが心配されている。南都八景にも数えられる名勝だが近年は観光客によるゴミ問題が深刻化している



⑨五十二段

大仏の世界観を表現している『華嚴經 入法界品』の、善財童子が53人の善智識を尋ねて修行を重ねる話にならなむ。53人の菩薩を尋ねて悟りの世界へと続くところ、その一歩手前の52段で悟りの寸前を表している。
石段の下が六道の辻と呼ばれ五十二段も入れ六本の道に分かれている。前世の行いにより地獄、餓鬼、畜生、阿修羅、人間、天上のいずれかに生まれ変わる選択肢を表している。



⑩元興寺

日本最古の本格的仏教寺院として6世紀に蘇我馬子が飛鳥に法興寺を建立し、平城京遷都に伴って飛鳥から新都へ移転して元興寺となった。一部瓦は創建当初のものが未だに使用されている。奈良時代には東大寺や興福寺と並ぶ大伽藍を誇り、今日「ならまち」と称される一帯のほとんどは元興寺の境内だった。収蔵庫に安置されている五重小塔は内部まで忠実に作られており国宝指定されている。平成10年(1998)12月、ユネスコの世界文化遺産「古都奈良の文化財」のひとつとして登録された。



⑪オブジェ

テハラを中心に活躍中のイラン人アーティスト、サハ・ヘサミヤンによる「開花」と名付けられた作品。インド、エジプト、イラン(ペルシャ)へ伝わり、日本へは仏教とともに中国から伝播した蓮をモチーフにして製作され、東アジア文化都市2016において興福寺内に展示された。日本とイランとの架け橋になればと、展示終了後に奈良市に寄贈され現地で常設展示されている。



⑫大乘院庭園

興福寺塔頭。摂関家特に九条家系の勢力が強く、中世には一乗院と並ぶ有力な塔頭で門主は摂関家や将軍家の子弟から迎えていた。室町時代には大和国一帯の座を広く支配下に収め大いに栄えたが戦国時代に所領が減少し、明治2年(1869年)の廃仏毀釈により消滅した。無料休憩所の名勝大乘院庭園文化館の奥に、日本トラストによって整備された庭園がありかつての面影を残す。因みに同じく塔頭の一乗院は現奈良地方裁判所となり遺構は見られないが、建物の一部は唐招提寺などに移築されている。



⑬頭塔

方形の封土を3段に築き、その4面に石仏を配列したもので現在浮き彫りの石仏が13個あり、奈良時代の数少ない石仏群として有名。奈良時代の僧玄防の頭を埋めた墓との伝承があったため、この名称の由来とされてきた。その後大正11年(1922年)3月8日付けで国の史跡に指定され、頭塔は奈良時代の土塔として、学術的に位置づけられ今日に至る。俗称「奈良のピラミッド」と呼ばれ、県道80号線を奈良公園方面へ走る車内からホテルウェルネス飛鳥路手前で一瞬姿が見える情景は愛好家の中で人気が高い。



⑭十輪院

寺伝によると奈良時代に右大臣・吉備真備の長男である朝野宿禰魚養が創建したと伝わる。本堂(国宝)内に祀られた石仏(重文)は、その内部に、地藏菩薩立像、釈迦如来立像、弥勒菩薩立像などが浮彫りになった珍しいもの。森鴎外、水原秋桜子らの歌にも詠まれた。境内には歌手の河島英五さんの墓がある。本堂横で購入できる高野山の胡麻豆腐は観光客に非常に人気。

なら観光マップ



マンション総合管理の
(有)奈良住生活研究会

〒630-8362 奈良市東寺林町30

TEL: 0742-24-1431

http://マンション管理会社.jp

